

適性検査

注意

- 1 問題は1だけで、2ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前十一時四十五分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えはすべて解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受検番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立南多摩中等教育学校

①

次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。
（*印の付いている言葉には、本文のあとに「注」があります。）

私は言葉を覚えだしたところから、「なぜ?」「どうして?」の多い子供だったと、母や祖母がよく話していた。私の質問を、母は面倒がらずによく聞いてくれた。それでもときには、私の疑問を正確に伝えられなくて、悲しい思いをすることがあった。私の語彙が足りなかったり、私の頭の中で疑問の焦点が的確に絞れていなかったり、というのが原因である。

この傾向は、物心ついたときから、小学校高学年まで続いた。一番古い記憶では、幼稚園に入る前の四歳のころのものがある。私は、母から「液体」という言葉を引き出すことができず、とても困った。

母が台所で天ぷらを揚げるのを見ていた。私の見ていたのは、天ぷらではなく油だった。天ぷら鍋にいっぱいに広がっていた油が、漏斗の細い口を通り抜けて、油保存用のカンに移されるのを、胸が痛くなるほどの驚きで眺めていた。玩具やテーブルや茶碗や箸などの、身のまわりのすべてのものと違うことが分かった。

油と似たものとして知っているのは、水だけだった。

油と水に共通の性質、すなわち容器の形に合わせて自在に形を変え、こぼしてもしたら二度と拾い集められない——そういう属性をもつ物質すべてを総称する言葉が

あるはずだ。それを知りたかった。しかし、日常会話に必要な単語すら十分に修得できていない年齢だったから、「そういう属性を記述する言葉は?」などという質問の仕方は、もちろんできなかった。

連日の「なぜ?」「どうして?」に、母のほうもたいへい辟易していたに違いない。それでも、水と油はいかに相いれない性質をもっているかを説明してくれた。油が水に溶けないことから、比喩として一般に「水と油」という表現の使われることまで、幼い私に聞かせてくれた。

それは分かっている。もちろん、水と油とでは、異なる性質はたくさんあるだろう。それでもなお、油と水は仲間のはずだ。固有の形がない。流れていつてしまう。もう泣き出しそうになりながら、しつこく母にまつわりついたけれど、不成功に終わった。知りたかったのは、先にも書いたように「液体」という言葉だった。テーブルや茶碗は、「固体」という状態にあるけれど、水や油は「固体」ではなく「液体」の仲間には属している。そういう説明を聞いたかったのである。

それから幾夜かは、くやしさのあまり眠れなかった。自分の表現力の乏しさが情けなかった。今でも鮮明に覚えていたのだから、よほど口惜しかったのだろう。

（ 中 略 ）

子供の心には、何もかもが新しく、不思議に見える。

そういう目は大人になるにつれて曇^{くも}ってくるようだ。人間はきわめて高い順応力^{＊じゅんのうりよく}をもっている。どんな環境^{かんきよう}に置かれても、最終的にはその中で活路^{＊かつろ}を見出す^{みいだ}ことができるのもそのおかげである。

反面、それは慣れることに他^{ほか}ならない。何もかもが当たり前に見えてしまつて、不思議ともなんとも感じなくなる。私は今、油が容器にしたがつて形を変えていく様子を、遠いあの日のように新鮮な驚きで眺められるだろうか。

(米沢富美子「まず歩きだそう」女性物理学者として生きる」による)

〔注〕語彙^{ごい}が足りなかった——使いこなせる言葉の数が足りなかった。

焦点^{てんてん}——ものごとの一番重要なところ、中心となるところ。

漏斗^{りゅうと}——口の小さな入れ物に、液体を注ぐときにつかう道具。

玩具^{がんぐ}——おもちゃ。

属性^{ぞくせい}——ある物事がもつ性質。

総称^{そうしやう}する——一つにまとめて呼ぶ。

辟易^{へきえき}して——どうにもならなくて、こまりはてて。

幾夜^{いくよ}かは——何日かの夜は。

順応力^{じゅんのうりよく}——まわりの変化に合わせて変わっていく力。

活路^{かつろ}——生きのびる方法。

【問題一】

筆者はなぜ眠れないほどくやしかったのですか。「母」「性質」「表現力」という三つの言葉を入れて、四十字以上六十字以内で説明しなさい。なお、や、も、それぞれ字数に数えます。

【問題二】

筆者と同じように、驚きをきっかけに出してきた疑問について文章を書きましよう。文章には、具体例を一つ挙げ、その疑問についてあなたが調べたり、考えたりしたこと、そこから学んだことを入れてください。なお、次の「きまり」にしたがい、四百字以上五百字以内で書きなさい。

「きまり」

- 題を指定されたらんに書きなさい。
- 最初の行から書き始めます。
- 各段落^{だんらく}の最初の字は一字下げて書きます。
- 段落をかえたときの残りのます目は、字数として数えます。
- 、や。や、なども、それぞれ字数に数えます。